

① 自分で会社を起業する

清教学園高校卒業生保護者

私は36歳の時にアパレル会社を起業し、10年間会社を経営しました。皆さんの中にも、「将来、会社を作って社長になりたい」と考えている人もいると思うので、私が会社を作ろうと思うようになった経緯や、実際の苦労話などを紹介します。

母親が家で服飾デザインの仕事をしていたのを見ていたので、子どもの頃から「服を作る」ことに大変興味がありました。将来自分の好きな仕事に就きたいと考えた私は、広い知識と高い専門性を取得するために高校で理系を選び、専門学校ではなく生活科学部被服学科のある大学に進学しました。

大学卒業後、高級アパレルメーカーに就職しましたが、「自分が着たい」と思えるものを作ることができなかったため、4年で別の会社に転職しました。

この2社目の会社は、小さな会社でしたがとてもいい服を作っていて、まさに「自分が着たい」と思える商品が多く、とてもやりがいがありました。しかし、徐々に人気が出てきて会社が大きくなってきた頃から、「より売れるもの」を作る方針が変わっていききました。

自分が作りたいと思ったものを会社に提案しても、だんだん評価してもらえなくなってきました。今から思うと、大企業になっていく会社の「新しい方針」を理解することができなかった私自身も良くなかったのかもしれない。しかし、当時まだ若かった私は、自分がいいと思ったものをお客様が評価するならまだしも、会社の人にとにかく評価されることに耐えきれず、「自分で会社を作る!」という一大決心をして、会社を出ることにしました。

初めは大変苦労しました。当時の日本には少なかったアパレル企業の「外注デザイン」という仕事を一人で始めた私は、生活に必要な収入を得ることができず、夜はコンビニ等でバイトをしながら仕事をしていました。事務所も6畳ひと間のワンルームを4社共同で使うという中に入れてもらったスタートでした。

しかし徐々に仕事がもらえるようになり、やがて「一緒にやろう」というパートナーとも出会い、会社が成長していききました。そして5年後には中国で工場を持ち、180名を雇える会社になりました。

「自分の評価は自分でしたい!」との勢いで、会社を作り、経営者になりましたが、実際はいいことばかりではありませんでした。

一番つらかったことは、子どもが交通事故に遭ったと聞いたときにも帰ることができず、仕事を続けなければならなかったことです。

大きな会社に就職すると、「不測の事態」が起こると誰かが仕事を代わってくれます。しかし小さな会社を経営すると、代わってくれる人がいません。すべての責任は自分にかかってきます。当然仕事が忙しくなると、土日ありません。何十日間も休まず仕事をしたこともあります。

ですが、つらいことばかりではありません。当然いいこともたくさんあります。

自分のデザインを即提案できます。お客様が採用してくれない時もありますが、採用してくれた時の喜びはひとしおです。実際に街で着用された方を見かけた時の感動は今でも忘れられないくらいです。

また仕事がうまく行き出すと、自分で好きな時に休むことも可能です。夏休みをわざとずらして取って、すいている時をねらって旅行に行った時もありました。

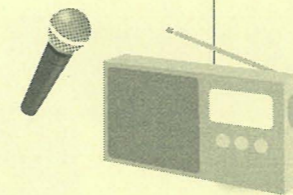
つまり、「つらいことも大きいけど、喜びも大きい」「責任も大きいけど、やりがいも大きい」というのが、会社を営むことだと思います。

中国の工場がうまくいかず、6年前にやむなく会社を閉じることになりましたが、以前勤めていた会社の先輩が起業したスポーツメーカーでデザインや開発をしています。

経営者に限ったことではありませんが、「自分の思いを貫きとおす」ことはとても大事なことです。ただ重要なことは、就職した会社と合わないからといってすぐ辞めるのではなく、「どこが合わないのか」「自分の考えは本当に正しいのか」を見極めることです。そのためには、「石の上にも3年」といいますが、最低3年は就職した会社で働いてみることで、その上で、自分の考えが正しいと思えたら、「自分で起業する」ことを考えた方がいいのではないかと思います。

ただ、ひとつアドバイスです。私のようにいきなり「会社をつくる!」といって辞めるのではなく、計画を持って(資金を準備するなど)行った方がいいと思います。

皆さんがいい仕事をし、いい人生をおくれることを願っています。



② アナウンサーから広がった3つの仕事。大事なのは…

高校生保護者

私の小学生の頃の夢は「声優」になることでした。

そのきっかけは、学校で放送劇をした時に先生から皆の前でほめられたことでした。

そして、中学・高校と演劇部に入り、大学時代は自分でアルバイトをして稼いだお金で、声優、アナウンサーの勉強ができる「養成スクール」に通いました。

自分の声の力を活かせる仕事がしたく、その養成スクールを運営している芸能事務所のオーディションをうけ、なんとか合格し、事務所に所属することができました。

事務所に所属したら安定した収入が得られるという訳ではありません。仕事をもらうためにはオーディションをうけ、うかれば仕事がくるという仕組みです。私が仕事を始めた最初の月のギャラ(月給)は「3,500円」だったのを覚えています。

しかし、常に自分の仕事をオーディションで勝ち取るという仕組みのおかげで、「ハングリーさ」を身につけることができたのではないかと考えています。声優は大阪ではなかなか仕事がなく断念しましたが、アナウンサーの仕事は徐々にもらえるようになりました。

そしてラジオ局でのレギュラー番組や、映画完成披露試写会での出演者へのインタビューなど、仕事が頻繁に入ってくるようになりました。映画俳優やジャニーズ等のアイドル歌手へのインタビューもたくさんさせてもらい、普段は見られないタレントの「人となり」に接することもできました。その頃の私は「自分がやりたい仕事ができている〜!」なんて幸せな感じでした。

しかしその後、大きな「転機」がきました。それは結婚でした。主人の仕事の関係で広島に行かなければならず、私は芸能事務所をやめることになりました。

女性にとって結婚は、仕事を続ける上で大きな障害になることがあります。私の場合もそうで、広島での5年間は自分のやりたい仕事が全く出来ませんでした。

自らが苦労して「勝ち取ってきた仕事」であり、とても充実していたので、その時のショックは大きかったです。しかし、その後復活できるようになりました。その時助けてくれたのが、「人と人とのつながり」でした。

運よく大阪にもどってこれた私に、芸能事務所時代の仲間のAさんが「一緒に仕事しない?」と声をかけてくれました。その後事務所所属ではありませんが、「フリーアナウンサー」という立場で、以前かかわった人達からも仕事がもらえるようになりました。この時、本当に「人と人とのつながり」は大変なんだと痛感しました。

今ではAさんと一緒に地域コミュニティラジオで子ども向けの「読み聞かせ」番組をもたせてもらっています。これは自分がとてもやりたかった仕事なので、自らスポンサー企業を探し、実施にこぎ着けました。

また、これもAさんのお誘いから始めたのですが、「ビジネスマナー」を大学で指導する仕事も始めました。もともと「自分のために」と思ってビジネスマナーの勉強を始めたのですが、結局これも「人と人とのつながり」「人とのコミュニケーション」が重要な点では今の仕事と全く同じなんだと感じ、どんどんはまっていききました。

大学生にビジネスマナーの指導をしていると、将来に不安を感じる学生の役に立ってあげたいと思うようになりました。そこで就職活動のお手伝いをする「キャリアコンサルタント」の資格を取りました。

「フリーアナウンサー」「ビジネスマナーの講師」「キャリアコンサルタント」。この3つはバラバラのように見えますが、私の中ではつながっています。いずれも一番大事なのは「コミュニケーション力」です。

清教学園の皆さんも、将来の事をいろいろ考えていると思います。私からのアドバイスですが、コミュニケーション力をつけるように努力してください。いろんな仕事がありますが、一人で出来る仕事はほとんどありません。必ず人と協力し合う所がでてきます。人と仕事をする時は、自分を主張することも大事ですが、人を理解してあげることがとても重要です。その時に必要なのがコミュニケーション力です。

そして「人との出会い」を大切にしてください。私自身、いろんな人との出会い、そして人と人とのつながりがあるんだと本当に思っています。

後は「チャレンジ」です。「あかんかったらあかんていいやん!」というくらいの気持ちで、まずはチャレンジしてください。人との出会いを大切に、コミュニケーションをしっかりするように心掛け、そしてチャレンジし続ければ、必ず道はひらけていきます。

皆さんが将来、「いい仕事」に出会えることを願っています。

